

第2回沿線まちづくり勉強会  
(小田急小田原線)  
・地方公共団体アンケート結果の報告

連携方策に関するアンケート結果のまとめ

2014年3月28日(金)

## 地方公共団体アンケート調査概要

調査期間	2013年11月18日(月)～12月6日(金)
調査対象	町田市、相模原市、座間市、海老名市、厚木市、伊勢原市、秦野市、松田町、開成町、小田原市
調査方法	メール送付による配布 / メール返信による回収
調査目的	鉄道沿線の魅力を活かした居住人口・交流人口の増加を図るために、沿線の地方公共団体及び鉄道事業者の連携による「ブランディング・PR」、「沿線サービスの充実」などの沿線全体での連携施策を検討
調査項目	<p>問1: 人口減少社会を迎える中、居住人口および交流人口の維持・増加のために<u>地方公共団体が取り組んでいる施策</u>の内容、課題等</p> <p>問2: 居住人口及び交流人口の維持・増加のために、<u>地方公共団体が他の団体(地方公共団体、民間事業者、NPO等)と連携</u>して取り組んでいる施策の内容、課題等</p> <p>問3: <u>沿線の「ブランディング・PR」にふさわしいと考えられるテーマ</u>、テーマの選定理由、ブランディング・PRの取組み方法</p> <p>問4: 「沿線サービスの充実」のために連携して取り組んだらよいと考える施策のうち<u>短期的(5年以内)に実施する施策の内容</u>、役割分担の考え方、実施上の課題等</p> <p>問5: 「沿線サービスの充実」のために連携して取り組んだらよいと考える施策のうち<u>中長期的(5年を超える期間)に実施する施策</u>の内容、役割分担の考え方、実施上の課題等</p>

## 問1：取組みの現況について

### 現在の取組みにおける課題・連携による改善について

- ・現在の取組みにおいて広域で連携することにより課題の改善が期待できる事例を一部紹介
- ・各市町単独ではなく、沿線全体の情報をまとめ、PR・発信することが重要と考えられる。

#### 相模原市：観光ルートの設定、PR

取組み	課題	連携による改善
旧市域における都市固有の景観や賑わい等を楽しむ「都市型観光」に加え、津久井地域の自然、歴史・文化、観光・レクリエーションの多様な地域資源を生かした新たな観光交流を創出することで、交流人口の拡大による地域の活性化を促すため、観光交流の地域づくりを行うための出発点となる計画として新相模原市観光振興計画を策定している。	地域資源の特徴あるまとまりを生かすため、市内を9つのエリアに区分し、地域の魅力を磨き上げ、相互連携により回遊性を高めることを目的としているが、地域資源の発掘や観光ルートとしての継続的な開発・設定が課題である。	小田急沿線の地域資源を他市の観光資源として融合することで市域を超えた観光ルートができる。
周辺都市との多様な交流・連携を通じて相互に価値を高めあう都市づくりを進めるため、中心市街地を含め「首都圏南西部における広域交流拠点」及び「都市の連携拠点」を形成する。 (以下省略)	・魅力ある都市機能等を集約することが必要となる。 ・人や企業から選ばれる都市づくりにあたり、都市間(駅間)において、どのように差別化を図れるか。 ・社会経済情勢の変化による企業オフィスの動向が把握できない。	・の連携ではないが、沿線それぞれの駅周辺における、まちづくり情報等の特長を車内公告等を活用し、PRすることで沿線全体のイメージアップを図る。

## 問1：取組みの現況について

### 現在の取組みにおける課題・連携による改善について（続き）

#### 厚木市：情報誌によるPR

取組み	課題	連携による改善
<ul style="list-style-type: none"> <li>・厚木をPRした<b>情報誌</b>の作成など</li> <li>・アンケート調査の実施(駅周辺のマンション在住の方)</li> </ul>	<p>人口対策の一環として、定住促進を図ることを目的に、街のデータ、イベントレポート、行政サービス、観光、文化など、本市の情報をビジュアルで分かりやすく紹介した情報誌を5万部発行した経緯がある。但し、情報は常に変わっていくので、今後において<b>新たな情報発信の手法を検討</b>する必要がある。</p>	<p>本市単独ではなく、<b>沿線全体で情報誌</b>を作成し、各自治体のセールスをPRしていく方法もある。</p>

#### 伊勢原市：近隣市と連携した回遊性の向上

取組み	課題	連携による改善
<p>「神奈川第4の観光の核」認定に基づく、<b>大山地域での観光振興</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マスメディアへの露出が高まったことにより、交流人口の増加が図られた。</li> <li>・受け入れ側の許容量(例駐車場の確保、路線バスの運行頻度など)を超える流入により、<b>交通渋滞</b>、最寄り駅での路線バス待ち客による混雑を招いている。</li> <li>・観光地における駐車場の確保、広域幹線道路沿いからのパークアンドライドによる誘導、他の観光施設等への回遊性を確保</li> </ul>	<p>・観光地大山を分岐点として近隣市(秦野市、厚木市)へ回遊させることができる。秦野市・鶴巻温泉、厚木市七沢・飯山</p>

## 問1：取組みの現況について

### 現在の取組みにおける課題・連携による改善について（続き）

#### 秦野市：行政情報・観光情報の提供

取組み	課題	連携による改善
住民票や課税証明などの書類を取得したり、観光情報を取得できる <b>連絡所を駅に隣接</b> する建物内に設置し、週1回午後8時まで開所するなど、市外に通勤・通学している市民の利便性向上に努めている。	場所によっては、駅利用者が近隣自治体の住民と <b>混在</b> しているところもあり、 <b>他の自治体の業務を取り扱ってほしい</b> という要望がある。	<b>行政情報や観光情報を連携して提供</b> することで、沿線利用者の利便性が向上する。

#### 松田町：沿線全体の情報発信サービスの充実（住宅情報等）

取組み	課題	連携による改善
<b>住宅取得促進奨励交付金</b> として町内に住宅を新築された方等に対し所定の金額を交付し、居住人口の維持、増加に取り組んでいる。	現行の奨励金制度は一定の条件を満たした場合、各世代へ分け隔てなく交付する制度となっている。しかしながら、子育て世代の定住化に向けた施策に重点的に取り組む当町としては、交付対象をより絞った形で、 <b>より重点的な投資</b> が可能な制度への移行を検討している。	沿線全体の市町の <b>住宅情報</b> （各市町の定住促進事業を含む）がすべて網羅された <b>ホームページ</b> などを整備することで沿線地域全体の情報発信サービスが充実する。

## 問1：取組みの現況について

### 現在の取組みにおける課題・連携による改善について（続き）

#### 開成町：圏域全体の知名度アップ

取組み	課題	連携による改善
開成駅近くに現在土地区画整理事業が進められており、今後早期の居住人口の増加を図るため、SNSや情報誌による情報発信の強化や体験ツアーなどによる交流人口の増加を図るための施策を平成26年度より実施する予定。	町単独で取り組んでも限界があり、町のPRや知名度アップにつながらない可能性がある。	近隣市町や鉄道事業者等と連携することにより、圏域全体の知名度アップにつながり、交流人口及び居住人口の増加が期待できる。

#### 小田原市：まち歩き観光の推進

取組み	課題	連携による改善
・まち歩き観光の推進 旅行会社と協力し、継続的な旅行商品化を目指しモニターツアーを実施	・継続実施にむけた運営体制の確立 ・採算性をいかに確保するか	沿線全体に対する周知活動

## 問2：他の団体との連携施策

### 他の団体との連携施策

- ・ 各市町と事業者やNPO等が連携して取り組んでいる事例を一部紹介
- ・ 他市町での横展開を図ることも考えられる。

#### 町田市：町田駅の魅力を向上するプロジェクト

施策名	町田駅の魅力を向上するプロジェクト
実施目的	町田駅は首都圏における有数の商業拠点として、現在も市内外から多くの人を惹きつけています。近隣の拠点駅では大規模な再開発事業によって集積が進む商業施設や娯楽施設、近隣市の工場跡地などに進出している大型ショッピングモールは「商都まちだ」を脅かす存在となりつつあります。 そこで、 <b>町田駅周辺地域の魅力をより一層向上させるため、3つの重点検討地区を設定し、新たな賑わいの創出やゆとりの空間の確保に向けた取り組みを進めます。</b>
実施内容	(戦略1) 交通結節点としてのターミナル機能の強化 (戦略2) 来街者が多様な楽しみ方ができる取組 (戦略3) 誰もが快適に歩くことができるまちづくり
実施期間	本プロジェクトは、町田市基本計画「まちだ未来づくりプラン」(2012年度～2021年度)のリーディングプロジェクトのひとつであるが、計画期間の10年を超える長期的な視点に立って取り組みを進めることとしている。
実施主体	町田市
運営主体	町田市
協力団体	交通事業者、商工会議所、商店街、町内会

## 問2：他の団体との連携施策

### 他の団体との連携施策（続き）

#### 相模原市：シティセールス推進方策

施策名	シティセールス推進方策(地盤ツアーの実施)
実施目的	本市の強固な地盤のPRにより、安全・安心の面から良好な居住環境としてのイメージ発信することで、将来的な居住人口の増加を図る。
実施内容	家族連れを主な対象とし、市内各所のバスツアーを実施。 マンション・SC建設現場での不動産会社による事業者(商業的側面)から見た本市の地盤の優位性の紹介。 地質調査会社によるボーリング調査デモンストレーション。 市立博物館での資料見学&学芸員の解説。 特別高度救助隊のレクチャーによる防災教室
実施期間	平成24年8月
実施主体	市
運営主体	市
協力団体	不動産会社、地質調査会社

## 問2：他の団体との連携施策

### 他の団体との連携施策（続き）

厚木市：広域行政における取組み

施策名	広域行政における取組
実施目的	現在、本市と近隣自治体とともに、地域の情報発信及び様々な課題取組に向けた施策を展開している。
実施内容	観光施策(大山ウォーキング)、環境施策(啓発ポスターの作成)、大規模災害を想定した合同防災訓練、地域情報を発信したパンフレットの作成、公共施設の相互利用などに取り組んでいる。
実施期間	通年開催
実施主体	県央相模川サミット(相模原市、厚木市、海老名市、座間市、愛川町、清川村)、広域行政連絡会(秦野市、伊勢原市、厚木市、愛川町、清川村)、厚木愛甲まちづくり研究会(厚木市、愛川町、清川村)
運営主体	上記と同様
協力団体	上記と同様

## 問2：他の団体との連携施策

### 複数地方公共団体による連携施策

- ・ 知名度を高めるためには、都心寄りのエリア（町田周辺）への周知が必要である。  
沿線地方公共団体間の連携により、知名度アップが期待できる。

#### 伊勢原市等：丹沢大山観光キャンペーン推進協議会

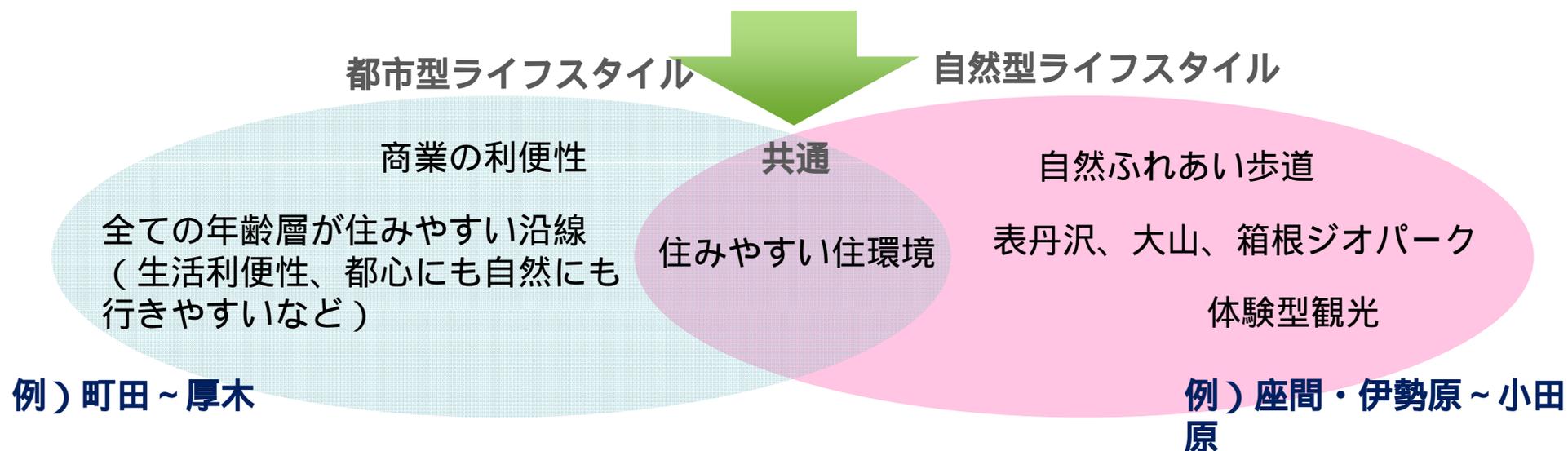
施策名	丹沢大山観光キャンペーン推進協議会
実施目的	神奈川県県央・県西部7市町村(愛川町、厚木市、伊勢原市、清川村、秦野市、松田町、山北町)や小田急電鉄、神奈川中央交通、相模鉄道、富士急湘南バス、大山観光電鉄が、丹沢大山国定公園をキーワードに山歩きやハイキングに訪れる観光客への情報提供をホームページやポスター掲示、小田急沿線駅でのキャンペーン実施などを行い、域内への交流人口の増加を目指している。
実施内容	専用サイトの開設 周知ポスターの作成・掲示 小田急線駅でのキャンペーン実施(年2回)
実施期間	設立時期不明、通年開催
実施主体	愛川町、厚木市、伊勢原市、清川村、秦野市、松田町、山北町、及び各市町観光協会、宮ヶ瀬水の郷観光協同組合、神奈川県、県観光協会、県県央・湘南・足柄上地域県政総合センター、県、自然環境保全センター、小田急電鉄、神奈川中央交通、相模鉄道、富士急湘南バス、大山観光電鉄
運営主体	愛川町、厚木市、伊勢原市、清川村、秦野市、松田町、山北町、及び各市町観光協会、宮ヶ瀬水の郷観光協同組合、神奈川県、県観光協会、県県央・湘南・足柄上地域県政総合センター、県、自然環境保全センター、小田急電鉄、神奈川中央交通、相模鉄道、富士急湘南バス、大山観光電鉄
協力団体	-

## 問3：ブランディング・PRのテーマ

### ブランディング・PRの対象

アンケート調査結果より、複数の地方公共団体が連携してブランディング・PR可能な項目を抽出

- 特定資源の活用
- 住みやすい住環境・ショッピング・観光など小田急沿線のライフスタイルの魅力のアピール
- 小田急沿線自然ふれあい歩道 お散歩ガイド（小田急電鉄(株)発行）の拡充
- この地域で育ち、育てていくことができるまち：沿線の一つの地域としてとらえ、仮想の主人公を設定し、その人物の人生の成長をストーリーにして複数のメディアで発信
- 表丹沢や大山、箱根ジオパークなどの自然を活かした観光、登山など
- 体験型観光：沿線沿いの近隣市町と連携して、年間を通じた複数の体験プログラムを開発してPR

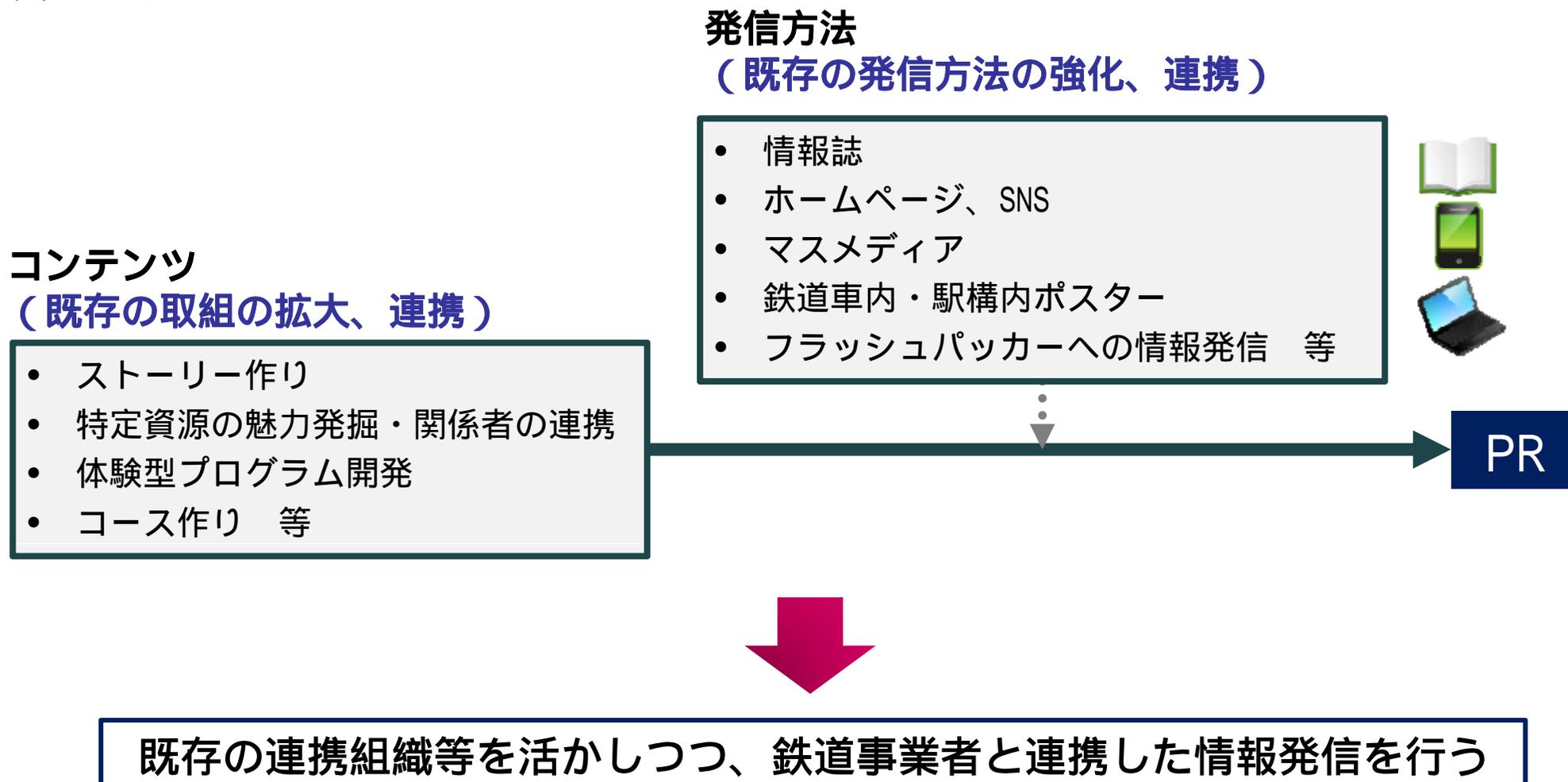


## 問3 沿線の「ブランディング・PR」にふさわしいと考えられるテーマ、テーマの選定理由、ブランディング・PRの取組み方法

地方公共団体	回答
町田市	住みやすい住環境・ショッピング・観光など小田急沿線の <b>ライフスタイルの魅力</b> のアピール
相模原市	小惑星探査機「はやぶさ」「はやぶさ2」をはじめとする” <b>宇宙</b> ”をテーマとした取り組み
座間市	小田急沿線 <b>自然ふれあい歩道 お散歩ガイド</b> (小田急電鉄株発行)の拡充(市内に限定せず、沿線・各駅単位で一日あるいは半日で沿線を回遊できるコースを設定するなど)
海老名市	「 <b>この地域で育ち、育てていくことができるまち</b> 」:沿線の一つの地域としてとらえ、仮想の主人公を設定し、その人物の人生の成長を <b>ストーリー</b> にして複数のメディアで発信
厚木市	小田急沿線の <b>観光スポット等の情報発信</b>
伊勢原市	<b>丹沢大山国定公園</b> 周遊の旅
秦野市	表丹沢や大山、箱根ジオパークなどの <b>自然を活かした観光、登山</b> など
松田町	<b>緑と清流</b> のまち、 <b>ゆとり</b> を楽しむ きらめく松田
開成町	体験型観光:沿線沿いの近隣市町と連携して、年間を通じた <b>複数の体験プログラム</b> を開発してPR
小田原市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フラッシュパッカーを狙った<b>1拠点長期滞在型周遊観光プラン</b>の創出:一つの駅を取り上げて、そこに滞在すると、どんな観光が出来るのかを提案</li> <li>・<b>まちあるき</b>:100コースを設定してPR</li> <li>・おだわらスイーツプレミアム</li> </ul>

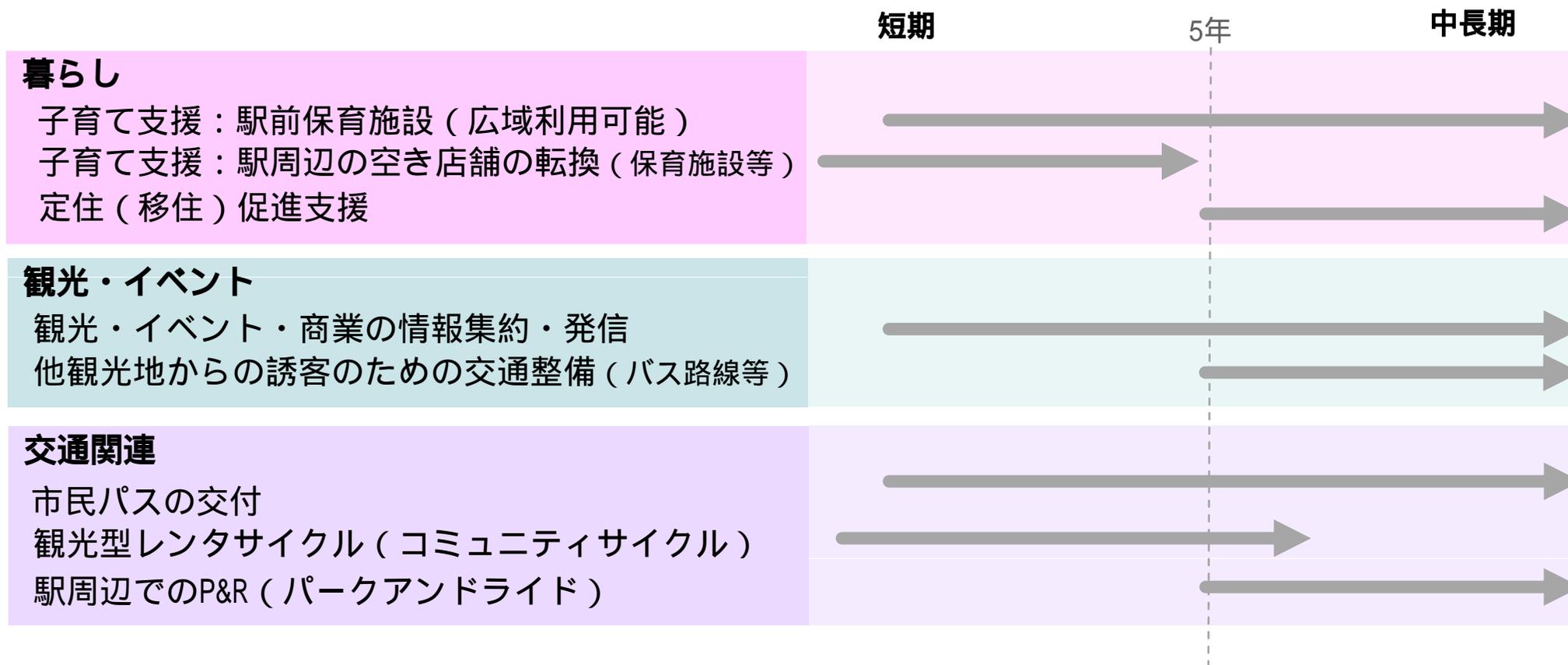
## 問3：ブランディング・PRのテーマ

問3より得られたブランディング、PRのコンテンツ作り、発信方法のまとめ



## 問4 + 問5 「沿線サービスの充実」のために連携して取り組んだらよいと考える施策

- アンケート調査結果より、複数の地方公共団体が連携して取り組める施策を抽出
- 矢印は地方公共団体の回答をもとに、短期は5年以内、中長期は5年以上として分類している。類似回答で短期・中長期の評価が分かれた場合や短期施策であるが継続的实施が必要な施策は短期～中長期にわたる設定としている。



問4 「沿線サービスの充実」のために連携して取り組んだらよいと考える施策のうち短期的（5年以内）に実施する施策の内容、役割分担の考え方、実施上の課題等

地方公共団体	回答
座間市	駅前保育施設の設置(鉄道事業者、市内保育施設との連携の検討)
海老名市	・ケーブルテレビにおける地域チャンネルの開設:ゆるキャラの注目度、発信力を用いてケーブルテレビで県央地区の行政情報、特産物や観光案内、カルチャースクール・イベント情報等、地域の魅力を内外に発信
厚木市	子育てづくりに充実したまちづくり: 沿線自治体の住民が広域的に保育施設を利用できるようにする。 駅周辺の空き店舗施設等を活用し、NPO法人等の協力により駅前児童一時預かり所の充実を図る。
秦野市	観光やイベント、商業施設等情報の集約、発信、投稿等情報の双方向化:WEB、SNSの活用
開成町	定住(移住)促進施策:小田急保留地の早期販売の促進、道路開通に伴うバス路線の新設
小田原市	・レンタサイクルの駅乗り捨て ・各市町の観光情報をはじめとする情報発信

注)無回答の市町は含まない。

# 参考：地方公共団体アンケート回答概要

15

問5 「沿線サービスの充実」のために連携して取り組んだらよいと考える施策のうち中長期的（5年を超える期間）に実施する施策の内容、役割分担の考え方、実施上の課題等

地方公共団体	回答
相模原市	(該当なし)
座間市	(該当なし)
海老名市	短期的施策(ケーブルテレビにおける地域チャンネルの開設)の <b>継続、拡大</b>
厚木市	短期的施策(子育てづくりに充実したまちづくり)の充実:空き店舗等を利用した <b>駅前児童一時預かり所</b> を需要に応じて <b>集約し、駅周辺に新たに設置</b> 。 公共施設が望ましいが可能なら民間の協力を得る。
秦野市	<b>パークアンドライド</b> による沿線と周辺スポット、施設の回遊性向上:駐車と電車の企画切符発行(割引など)も併せて検討
松田町	(該当なし)
開成町	(該当なし)
小田原市	箱根湯本駅～小田原駅間の <b>バス運行</b>

注)無回答の市町は含まない。